

性とセクシャリティの  
とりどりに  
に寄せて  
にじいろBiwako

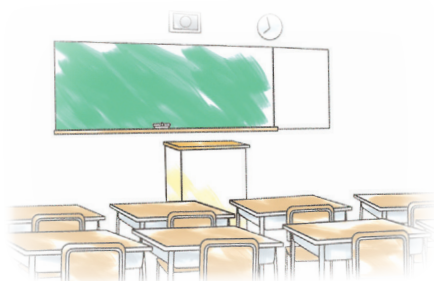
## 8. 誰もが過ごしやすい学校(社会)へ

NPO法人にじいろBiwako 理事 中野 誠治



私は公立中学校で働いています。ここ10年、学校では子どもたちの発言に変化が見られるようになってきました。「今は多様性の時代やし、いろんな人がいると思うよ」「男の子かどうかなんて、見た目だけでは分らんもん」。このような言葉を何気なく話す子どもたちがいて、それを否定する言葉も全く聞こえてきません。

また、講演会などでLGBTQ+がテーマになったり、教員向けの研修会等で扱われたりと、LGBTQ+について学習する機会が増えてきました。それにともなって、学校現場では服装の見直しや男女名簿、男女別整列の廃止、授業内でのグループ活動の配慮など、



〃生徒自身が一人ひとりを大事にする〃

様々な工夫がなされています。この意識の変化は、生徒自身が『一人ひとりを大事にする』ということにもつながっています。

例えば、体育祭や文化祭において、走ることが得意な人も苦手な人も楽しんでもらえる新しい種目を考えたり、劇をミュージカルに変更して、セリフだけでなく歌やダンスを入れたりするなどです。このように、LGBTQ+のことを学び理解を深めていく過程で、どうしたら全員が納得できる社会を築いていけるのかを考えられるようになってきています。私自身も子どもたちと一緒に、どうしたら安心して過ごせる社会を創っていけるのか、考え続けたいと思います。

LGBTQ+の内容から少し外れてしまいましたが、これからの社会を担う子どもたちが、このテーマを学ぶことで周りにいる人を大事にし、そして何より自分という一人の人間を大事に思えるようになればいいと思います。私自身も学びを深め、誰もが安心して過ごせる社会の実現に向けて努力していきます。